

1 自己評価及び外部評価結果 ユニット1丁目

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに		
所在地	岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0370500779&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田園に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており24時間連絡が取れバックアップ体制が取れている。又2ユニット間の連携も取れやすく行事、活動が行いやすい。毎月のバスハイクや母体特養でのバイキング食などに参加して頂くことで楽しみや生活空間の拡大を図っている。利用者の重度化に伴い利用者間のいたわり合いや助け合いなど利用者が自然に暮らしやすいよう雰囲気づくりに努めている。花壇の手入れや、ユニット合同でのプランター野菜づくりに挑戦し、収穫を楽しみにし、食材としても利用している。防災訓練での地域住民の協力参加、連絡網の整備を図った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価を受け、「目標達成計画」を立て実現に向けて管理者と職員が一体となって取り組んでいる。目標は、ほぼ達成されており、今後の更なる取り組み(質の向上)に期待される。地域との交流もよく行われ、老人会や子供会、花と緑の会等との交流も定着化されてきている。ボランティアの受け入れも、よく行われ利用者の意向に沿った関係づくりにも取組まれている。事業所の生活の様子は、広報「共に」で紹介されており、利用者が元気に楽しく暮らしていることが分かる。運営推進会議においては、利用者の生活状態や外部評価後の取り組みなどについて報告されており、会議で議論されたことを運営に活かすようにしている。ホーム内は、明るく静かで、テレビを見ている人、窓越しに花壇の花を眺めている人、利用者同士で会話が交わされている等、のんびりと過ごされている姿が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として住み慣れた地域で尊厳ある人生をその人らしく豊かに安心して暮らせる場所とし、朝のミーティングで唱和し、またホールなど目につく所に貼っている。利用者のケアプラン、ケース検討も理念に沿って共有し実践につなげている。	開所時から全職員で話し合って決めた理念であるが毎年、年度初めに理念を検討し、支援のあり方について話し合われている。朝のミーティングで唱和し、ホールの目に付く場所に貼って実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供みこしの来訪。地区老人会の花植え、草取。ボランティアによる昔話、おやつ作り、子ども会の交流会、工芸など日常的に交流している。	地区の子供会や老人会、各ボランティア団体との交流を持ちながら、花づくりや野菜づくり・手工芸・おやつ作りなどに取り組んでいる。また、日常的には、散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしている。年3回カラー印刷した広報「共に」を、利用者の家族や役所関係・商店・学校等に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護保険等についてわからない方が来訪したり、電話での問い合わせには、プライバシーに気をつけながら説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地区民生委員、市役所職員、包括支援センター職員、老人クラブ代表、所長、職員の構成で2ヶ月に一度開催。利用者の生活状況の報告、サービス評価後の報告、改善点の取り組み状況の報告をし、意見を頂きミーティングで話し合い、サービス向上に反映するようにしている。	家族会代表や地区代表、市職員、包括支援センター職員が委員となり奇数月に会議を開催している。利用者の生活状況や目標達成計画に基づいた取り組み状況等について報告し、助言を頂いている。それらをミーティング等で話し合い、ケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に高齢者担当職員が参加し、その中で行政的な意見や指導をいただきながら、サービスの質の向上につなげている。生活保護の方もいるので電話等でも相談している。	日常的には、担当職員に広報や電話などで事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を構築するよう努めている。また、担当職員や包括支援センター職員は、推進会議に出席いただき、現状を見てもらい協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員研修会で学んできたことを内部身体拘束防止ケアにて学習し、介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解してケアしている。外に出たい人には安全に見守りしながら付き添いしている。	外部研修で学んできたことの報告を手本にししながら、身体拘束をしないケアについての勉強会を行っている。報告と合わせて職員が実際に車椅子に長時間座ったり抑制帯を使用してみたりと疑似体験をしながら学んでいる。「待って」等という言葉の拘束をなくす方策についても話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員が中心となり、研修してきたことを内部学習会でも関連法について学び、ケアの中で虐待につながることはないか注意を払い防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について包括支援センター職員より、学習会として学び、利用者、家族に必要時に活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、利用者、家族に対し、重要事項説明書を提示し、疑問点をお聞きし、十分な説明をその都度行っている。家族会などで意見を聞いたり理解をいただいている。さらに重度化、看取りについても説明し、同意書も頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱の設置、家族面会時など意見を頂き支援につなげ、頂いた意見は検討し、改善し、家族会、運営推進会議に報告している。利用者の日常の様子等、家族にお話し、要望も聞くようにしている。	家族へは、利用者の生活の様子や行事について報告し、アンケート等でご意見をいただいている。家族会を開き、要望を聞いている。電話や訪問時に話しかけ、何でも話してもらえそうな雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどにて話し合う機会もあり、業務改善や、苦情、家族からの要望なども一緒に話し合っ改善につなげている。	毎朝開くミーティングや毎月開く職員会議、個人面談、アンケートなどで意見や要望を出してもらい、改善につなげるように努めている。掃除の時間帯や野菜の栽培方法、年間計画の作成などについて改善されている。	管理者は職員の質を向上させるために研修に力をいれたいと考えている。外部研修への参加や内部研修の充実や、事業所の質を一層高めるために、職員の意見や気付きを集約して実践し、実績を積み上げていかれること期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が母体である、施設の安全委員会に参加している。職員の個々の勤務状況、資格などやりがいを持ち、向上心を持って働ける環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は法人内の研修に参加をしている。指導担当職員がアドバイスをを行っている。内部では、年間研修計画を立て担当を決め自学し、発表し、向上につなげている。外部研修もあり、参加後は伝達報告を行って指導し合うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会、岩手県G.H協会、花北ブロックG.H定例会に参加し、交流を行っている。定例会では施設見学、意見交換などネットワーク作りに参加している。同業職員の交換研修を行い、情報交換し質の向上に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い本人の生活状態を理解するようにしている。本人の声や表情、状態などから、困っていることや、不安なことを、一早く察知し、安心できるような声かけや、リラックスできる雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、本人の置かれている状況や家族の不安を察知、理解するようにしている。親身になって家族の声に耳を傾け、利用者と家族の関係、家族状況を把握しながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の実情を把握した上で、必要としていることを見極め、本人が必要としている支援につなげるようにしている。居宅支援事業所よりサービス情報等を聞き伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊敬し、日常会話や昔話などから知恵を教わったり、持っている能力を引き出し、一緒に取り組むことで、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時本人の自宅での生活状況や思い出話を聞き、現在の生活状況をこちらから伝えることで情報を共有し、今後の支援に繋げている。家族面会時は、自室に案内し、家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から、会話の中に、家族、知人の名前や、場所などを折り込み、話題にしている。バスハイクの際は、地区名など具体的に話題にしている。	知人が訪れ、ウッドデッキで会話を楽しんだり、家族が毎月のように自宅に連れて行く機会を作っている。住んでいた地区のひな祭りを見に行ったり等もなされている。ドライブで利用者の部落を廻ってきたり、馴染みの理容店に行く利用者もいる等、それぞれの意向に沿える支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通する話題や活動を提供し、一緒に楽しめるよう工夫している。又、ソファやテーブルの配置を決め、コミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	母体の特養に移った利用者の面会に行ったり、家族に挨拶している。行事等に家族に再会することが多く、現状について話し合い、継続的に関わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動などから本人の意向を確認し共有している。又、言葉だけではなく、表情や、声のトーン等から思いを汲み取るよう努めている。	利用者の担当者を決めており、センター方式を採用し、利用者と話したこと、利用者や接する中で気付いたこと、また、家族から聞いたことなどの記録を取りながら、思いの把握に努めている。困難な場合は、ご家族から聞いたり、どちらがいいかという選択式で選んでもらう等の工夫に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族面会時に、以前の暮らしぶりや、本人の好みなどを聞き把握に努めている。又、本人と会話、暮らしぶりを観察することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々のケース記録や毎朝のバイタル確認等から利用者の心身状態把握に努め、職員間で話し合い、その日にあった対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話や行動から利用者の思いや、要望を汲み取りながら、家族から要望を伺い、職員間で意見を出し合いながら、利用者がよりよい暮らしができる様、ケアプランを作成している。	理念に沿った支援方針をベースとして、定期的に職員全員でモニタリングを行い、新たなプランを作っている。家族には毎月説明を行い、意見をいただいている。遠くの家族には郵送し、ケアプランに対する同意の有無や意見を記入してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チェック表記入やケース記録、連絡ノートから、職員全員が情報の共有を行っている。月一回まとめを行い、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、外出など支援を行っている。通院時など、安心して出かけられる様、事前、排泄状態を整えたり、様子観察を行っている。又、家族の状況に応じて送迎・付き添いを行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会や、ボランティア(各月一回、工芸、おやつ作り、花植え)地元消防団の火坊点検など、地域の方と交流し、なじみの関係となる様支援している。又、祭りの時期には神輿や踊りを見せに子供会の来訪がある。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医があり、家族との通院や週1の回診で健康状態を保つように支援している。歯科受信への付添支援等行っている。	本人や家族の望むかかりつけ医にかかっている。入居後、協力医に変えられた方もいる。家族が受診に付き添うことが原則であるが、家族の状態に応じて、通院支援等が行われている。かかりつけ医とは利用者の状況を報告し、連携を図っている。協力医の往診も受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師が24時間体制でおり、緊急時、夜間でも相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ情報提供を行い、家族や病院から状態を聞き、利用者が早期退院へ向け、グループホームに戻れる様、支援している。退院時の送迎等も行っている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人、家族に確認し、書面に残し、職員間で統一した支援ができるようチームで取り組んでいる。又、重度化の場合は併設の特養へ入所する方が多いので、特養の担当職員と連携を取り情報の共有に努めている。	本人や家族には、入居時に重度化の状態になった時は、併設の特養に入所出来ることを説明している。入浴が出来なくなったら、グループホームでの生活は難しいと考えている。食事の摂り方については、「にぎにぎ体操」で箸が使用出来るようになった事例もあり、日々の取り組みに力を入れている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回内部学習を行うとともに、母体施設にても実技研修を年1回受け知識と実践力を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年5回防災訓練を行っている。又、地元消防団が定期的に火防点検を行っている。万が一の災害に備えてレトルト粥や缶詰など備蓄食品(3日分)を保存している。又今回の地震の際は、ライフラインが途絶えてしまったため、食料の確保が難しくなったが、日常から地元商店を利用していたので、ほぼ通常通り食事を提供できた。	消防署職員や地元の協力者が参加し行う訓練と、事業所単独で行う訓練を合わせて5回行っている。119番通報すると地域の協力員まで連絡がいく体制になっている。今回の地震(3.11)では、停電が3日間続いたが、備蓄食品もあり地域との協力体制もあったことから大事に至らなかった。 地域の方に参加してもらった防災体制作りに取り組んでいる。今後も訓練等を積み重ねる中で、安心して避難できる体制作りに取り組まれることを望みたい。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令遵守やプライバシーの研修を行い人間の尊厳について学習している。利用者は常に目上の方であること、人生の先輩であることを意識しながら利用者一人一人の目線に合わせてケアにあたっている。	利用者のお部屋に入る場合には声がけをするようにしている。食べこぼしの片付けを行う際には、了解を得てから行うなど、利用者の返事を待たずに職員が勝手に動かないようにしている。常に「人生の先輩」であることを意識しながら尊敬の心を持って、支援することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々と過ごす時間を密に取り、本人の思いを聞き出す様働きかける。学習会を行い、利用者に対し「理念に沿って」ケアできているか確認している。選択食や誕生日には本人の選んだ、食事を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人に合わせ、時には食事を後で食べたり、昼寝の時間を多く取ったり、外に行きたい時は一緒に出かけたり、いつもと違った席やソファで過ごしたり、本人のペースを尊重しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新しい洋服を着たときは職員や他の利用者皆でほめたり、嬉しくなる様な声掛けを行っている。又、他者から見て利用者が恥ずかしい思いをしないように、直してあげたりサイズ調整を行う様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化し、立っての作業が難しくなってきたがくろみやごますり、味見をお願いしたり、テーブルを拭いてもらったり、本人のできることを探して一緒に楽しめる様支援している。又、プランターで野菜を植え日々の食材として活用し、楽しみとなる支援を行っている。	ホームの周辺にある落や、しその葉など採ってきたり、ホームで栽培したトマトやなす、きゅうり等を調理し、「食の楽しみ」に繋げている。メニューは、職員が作成しており、利用者の好みを聞いたり、行事に合わせた食事を作るように努めている。食事の準備や片付け、食器の拭き方など利用者が出来ることをやっていたりよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を記入し1日のトータル1300～1800ccは確保できている。水分補給が難しい利用者にはジュースやポカリスエットのゼリーを摂取させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き義歯洗浄を行う。(自分でできるところは自分でやってもらい)利用者によっては口腔洗浄剤を使用している。夜間は義歯洗浄剤によ洗浄を毎日行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ指導を行っている。排泄チェック表を記入し、活用している。立位が難しい人は二人介助を行い、トイレでの排泄を支援している。その為紙おむつの使用者はいない。	オムツを使用している利用者はおらず、リハビリパンツや尿とりパットを利用しながらトイレでの排泄を行っている。排泄の時間や、水分摂取の状態を記録した排泄チェック表を活用しながら、声がけをし、基本的にトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ミーティングで排便状況を申し送り、早目の対応を行っている。水分摂取、おやつにも工夫しており、繊維質の多いものを食べやすい状態にしてすすめている。(牛乳かん、煮りんご、プルーンを柔らかく煮たもの等)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状況に合わせて順番を調整しながら、本人が気持ちよく入浴できる様、ゆっくりとした介助に努めている。本人が不都合な場合は翌日に進めている。	日曜日を除き、毎日午後を入浴の時間とし、入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる方には、時間をずらしたり、タイミングをみて、誘いを掛けるようにしている。本人のペースに合わせてながら臨機応変に対応されている。職員は、浴室内での介助と衣類の着脱と分担しながら、二人体制で入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後と昼食後、居室で横になるのが習慣化しており、夜間も、ぐっすり眠っている。個人個人の疲れ具合を把握し、いつでも横になれるよう枕、タオルケットを準備し、安心して休息できる様支援している。又日光浴等を行い、夜間の安眠につなげるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の処方時は、必ず、ノートに記入し、申し送りを行っている。処方箋は、1つのファイルにまとめ、職員が把握できる様に状態変化や副作用等の観察にも気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きの方は、和室でテープを聞いたり、落ち着きの無い方は、職員と物を届けに隣のユニットに持っていったり、個々に合わせた対応をしている。カーテンの開け閉め、テーブル拭き、来客時の見送りの挨拶等、一人一人に合わせた役割を見つけ、やりがいに繋がる様支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回のバスハイクの実施や、天気の良い日は、グループホームの周りを散歩したりしている。定期的に併設の特養での演芸慰問などに参加している。	毎月、バスハイクが予定されている。7月には、ゆり園やバラ園に、来月には水沢の「輪投げ大会」に出かける予定が組まれている。併設の施設で行われる演芸慰問にも希望者は参加している。天気のよい日には、近所に散歩に出かけている。外出は、家族へも一緒に参加していただけるよう呼びかけも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外に出かけた時、自分の財布からお金を出し買い物をするをそばで見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気持ちの落ち着かない時は、電話して家族の声を聞いてもらったり、孫からの手紙に返事を書いたりなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や季節の花を飾ったり、明るく過ごせる様、支援している。加湿器やエアコンの除湿を利用し、気温、湿度の温度調整に気をつけている。特に今年の夏は熱中症にならないように温度管理に気を付けた。	採光がよく、静かな空間に利用者が思い思いに、のんびりと過ごされている。2畳ほどの量の間が移動が出来、うまく活用されている。色々な花鉢や手芸作品が部屋に飾られ、お庭の花壇には赤や黄色の花が咲いている。居間の隣には広いベランダがあり、お天気のよい日にはみんなでくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで利用者同士で会話をしたり、テレビや外の景色を見せたり、和室に腰掛け歌のCDを聴いたり、それぞれの場所で思い思いに過ごせる様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により、本人が使い慣れた物を持ってきて頂き、居心地よく過ごせる様支援している。ラジオや孫の写真、おどりに使っていた道具など、なじみの物を活かせる支援している。	テレビ、ラジオ、カラオケ、いす、筆筒が持ち込まれている。また、湯飲みやコーヒーセット、箸なども家で使用していたものを持ってきていただいている。本人や家族と機会がある毎に、居室の使い方について話し合いを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない利用者には、昔の写真や、大きな名札の設置、お風呂の入り口には温泉ののれんをかけたり、トイレには「男・女」のマーク、空き、入りの札を下げ、めくれる様にしたりし、工夫している。		